祇園祭　放下鉾稚児、久世駒形稚児

祇園祭の山鉾巡行に出る鉾には、囃子方とともに稚児が乗ります。現在は長刀鉾のみが実際の子ども（生き稚児とも呼ばれる）で、他の鉾は人形の稚児に代わっています。1929年（昭和 4）に放下鉾で生き稚児から人形に代わったことは、黒川翠山撮影写真資料を紹介しながら「写真資料から 44」で取り上げました（総合資料館メールマガジン第 125 号、2011 年 7 月 13 日）。

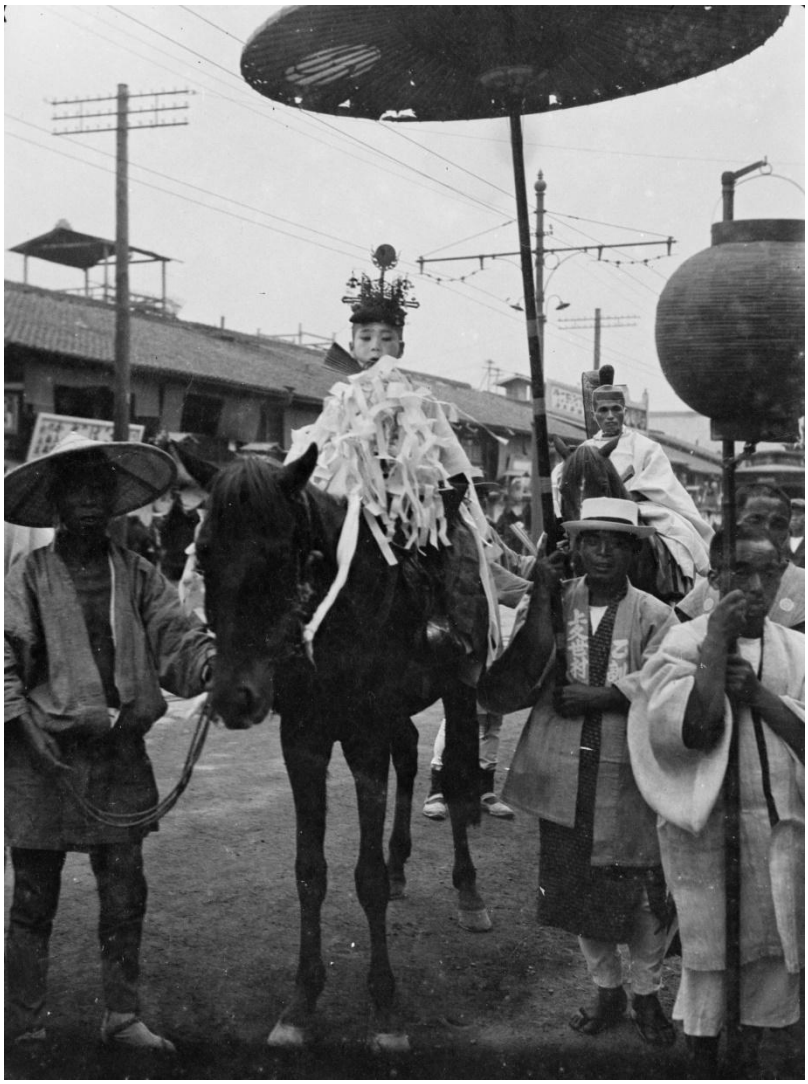
矢野家写真資料には、放下鉾の生き稚児の写真があります。町内から八坂神社に参拝するときの写真で、町内から出発するときの姿（No.121、122、125、126）、八坂神社前の姿（No.119、120）が写っています。

矢野家写真資料　No.120　稚児の社参 2

同資料には、それとは別に駒形稚児の写真もあります

（No.123、128）。駒形稚児は、神輿渡御に際して中御座神輿を先導する役割を果たす稚児で、京都市南区久世の綾戸国中神社から奉仕されていて、駒形を胸前に掛けることからこの名前があります。

No. 128 の写真には、馬に乗る稚児に朱傘を差し掛ける男性の法被に「乙訓／上久世村」の文字が見え、この稚児が駒形稚児であることを証しています。稚児は冠を被って馬に乗り、後ろに馬に乗った宮司が続いています。ただ、御幣に隠れて駒形は見えません。



矢野家写真資料　No.128　稚児の社参 10

写真をよく見ると、路面電車の架線を張る電柱も見えることから、四条通の光景だと思われます。No.123 の写真も、写っている人の服装等から同じ時のものと思われます。撮影年は不明ですが、矢野氏の他の写真なども参考にすると、大正年間後半から昭和初年頃のものと推察できます。

(写真資料から 81　資料課　大塚活美)

（2017 年 6 月 23 日公開）